

果樹の病害虫の発生状況（5月上旬）

令和7年5月19日

福島県病害虫防除所

ナシ黒星病の果実発病やモモハモグリガの被害葉が確認されています。ほ場での各種病害虫の発生状況や今後の気象情報に留意し、各樹種の生育に合わせて防除を徹底しましょう。

1 モモ（調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地）

（1）モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図1）。

新梢葉での発生はいずれのほ場も確認されませんでした。

今後の気象経過によっては、発生が急拡大するおそれがあるため、発病部（枝、葉、果実）のせん除を徹底するとともに、薬剤散布は降雨前の実施を心がけましょう（令和7年4月30日付け防除情報参照）。

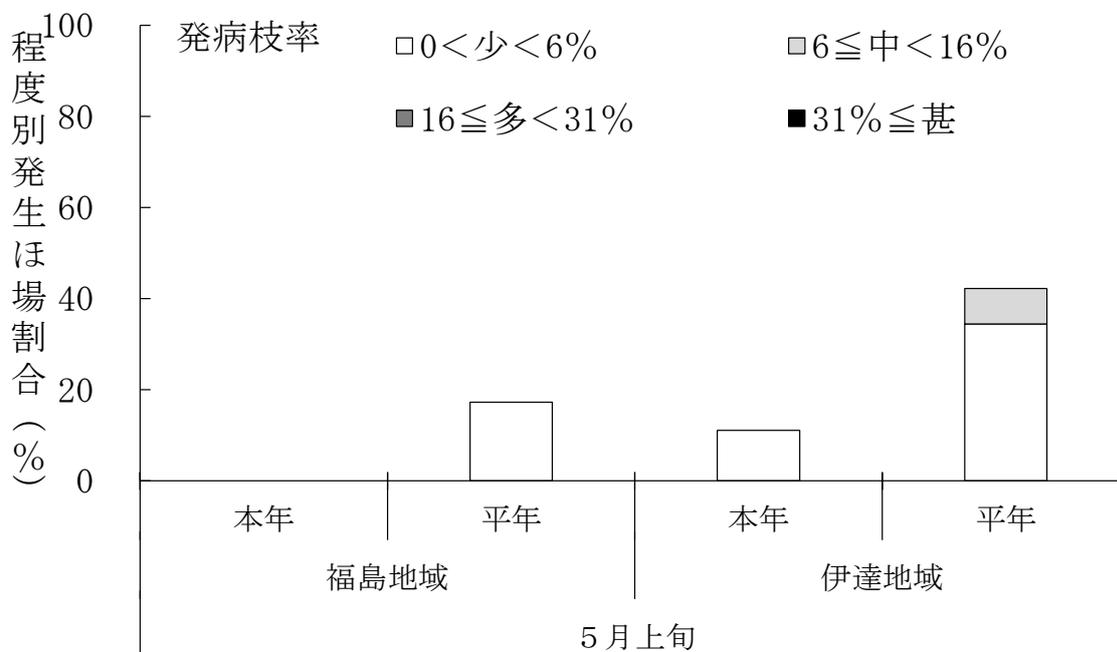


図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生状況（5月上旬、中下旬）

（2）モモ灰星病

5月上旬の「あかつき」での花腐れの発生ほ場割合は、いずれのほ場も確認されず、昨年のような多発生の状況ではありませんでした。本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

(3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年（5月下旬参考比較）に比べ高く、一部のほ場では被害程度も高くなりました（図2）。なお、県北以外のモモほ場でも本種の被害葉が確認されています。今後、病害虫防除所では防除情報を発出し、注意喚起を図ります。

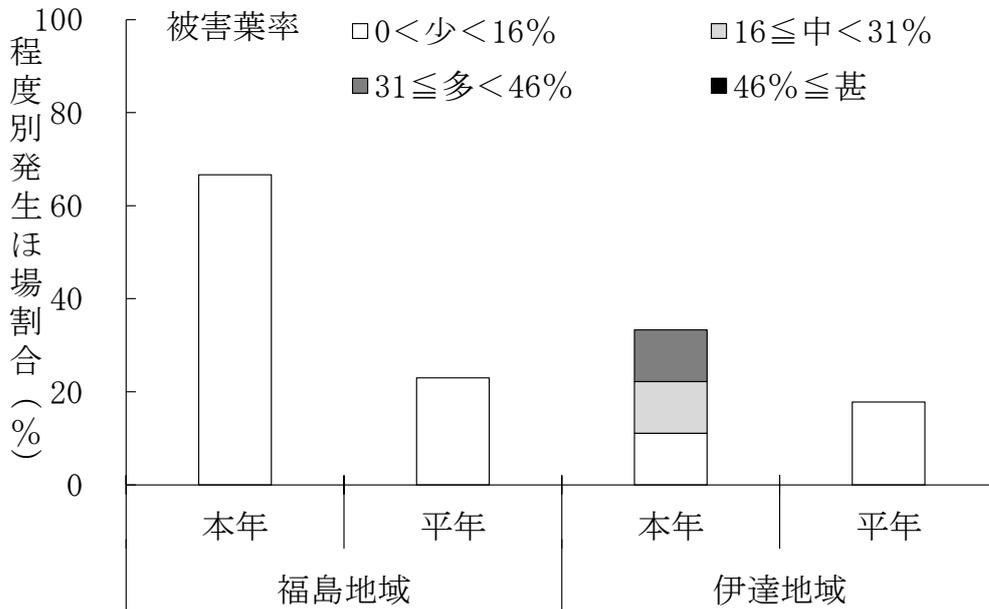


図2 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（5月上旬）

注）5月上旬の調査は本年は特別に実施。参考比較のため5月下旬の平年値を表示した。

(4) シロカイガラムシ類

農業総合センター内のウメほ場におけるトラップ調査の結果、ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生は5月7日から確認され、5月13日に歩行幼虫数が増加しています（図3、5月13日現在）。アメダス郡山の気象データを用いた有効積算温度による発生予測では、発生盛期が5月15日頃と推定され（5月16日現在）、発生予測と実測は概ね合致していると推定されます。

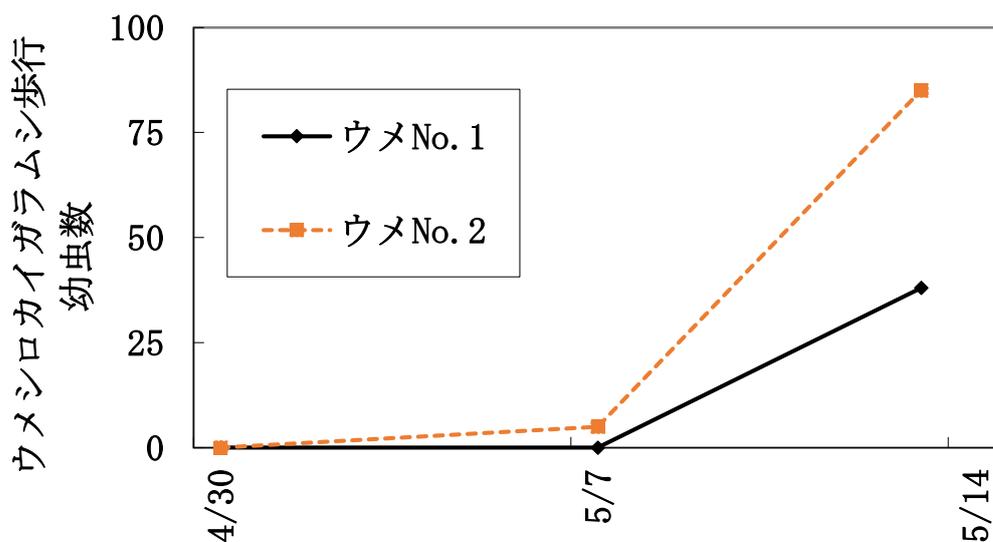


図3 ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生状況（5月13日現在、農業総合センター）

2 リンゴ

(1) リンゴ褐斑病

果樹研究所における子のを孢子トラップ調査の結果、4月23日に初飛散が確認され、4月24日、5月12日にまとまった飛散が認められました（図4、5月13日現在）。例年、本病の子のを孢子の飛散ピークは6月上旬頃となるため、今後も降雨の度に飛散が想定されます。

本病は、初発が早いと多発する傾向にありますので、一次感染期からの防除の徹底が重要となります。例年発生がみられるほ場では、落花2週間後にデランフロアブル 1,000倍、落花30日後にアントラコール顆粒水和剤 500倍を散布し初期の感染を抑えましょう。

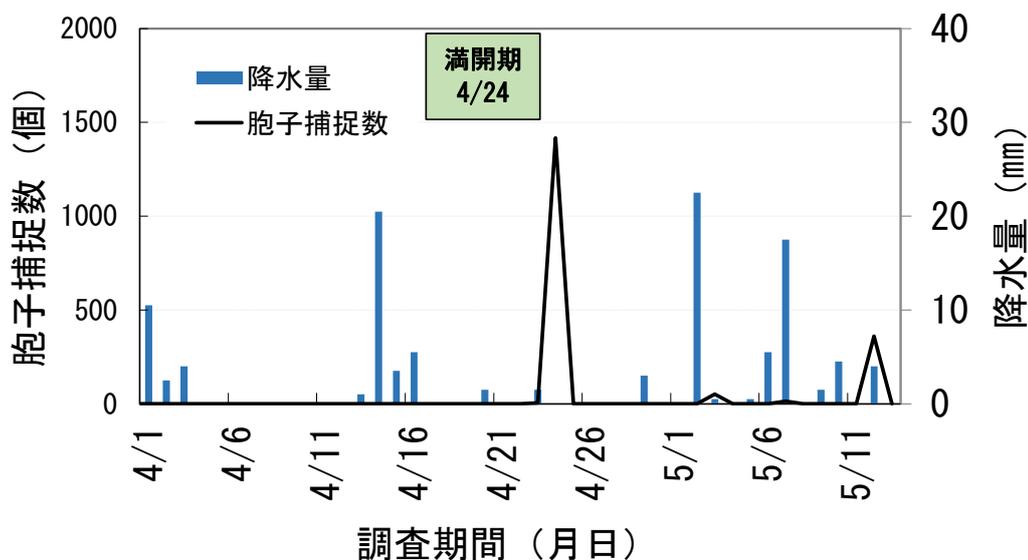


図4 リンゴ褐斑病の子のを孢子の飛散状況（5月12日現在、果樹研究所）

(2) リンゴ黒星病

会津研究所における子のを孢子トラップ調査の結果、満開期（5月1日）や落花期（5月7日）にまとまった飛散が確認されました（図5、5月12日現在）。5月12日にもまとまった飛散が確認されており、今後の降雨でも飛散が続き、感染リスクが続くことが予想されますので、落花2週間後の防除は、前回の散布から間隔を空けないよう注意しましょう。

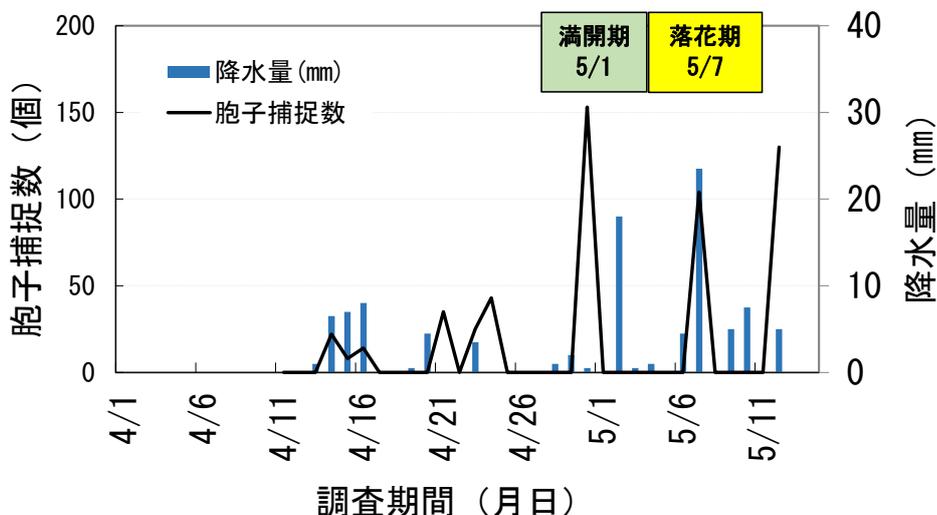


図5 リンゴ黒星病の子のを孢子の飛散状況（5月12日現在、会津地域研究所）

3 ナシ

(1) ナシ黒星病

果樹研究所では、5月7日に果実での初発が確認されています(図6)。これは、5月1日付け発生状況(4月中下旬)のとおり、胞子飛散が続いた4月14~17日の感染によるものと考えられます(果樹研究所、図7)。また、5月12日に実施したいわき市での調査においても、果実での発生が確認されました。

子う胞子の飛散ピークの時期は過ぎたと考えられますが、すでに果実への一次感染が確認されていますので、果そう基部病斑の発生と併せて、ほ場での発生状況に注意しましょう。防除対策は、発病部位は、見つけしだい除去し、適切に処分するとともに、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。



図6 ナシ黒星病の果実発病(5月7日、果樹研究所)

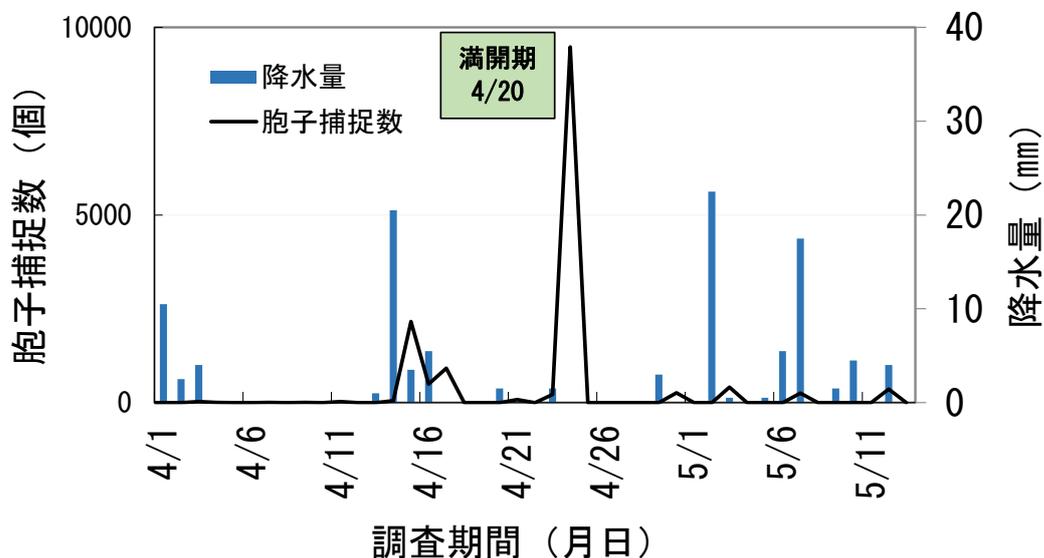


図7 ナシ黒星病の子う胞子の飛散状況(5月13日現在、果樹研究所)

4 果樹カメムシ類

5月3半旬のフェロモントラップ調査の結果、複数地点で平年より発生が多い傾向となっています（5月16日現在、別紙参照）。なお、相馬市のフェロモントラップでは、5月18日から19日にかけて、100頭以上のまとまった誘殺が確認されています。

また、5月上旬のモモへの飛来調査では、福島地域において、クサギカメムシの越冬世代成虫の飛来が平年より多く確認されました（図8）。また、農林事務所からの情報によると、桑折町の山沿いのモモ園において、5月12日の週からクサギカメムシの飛来が確認されています。

越冬世代成虫による加害は、幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施しましょう。

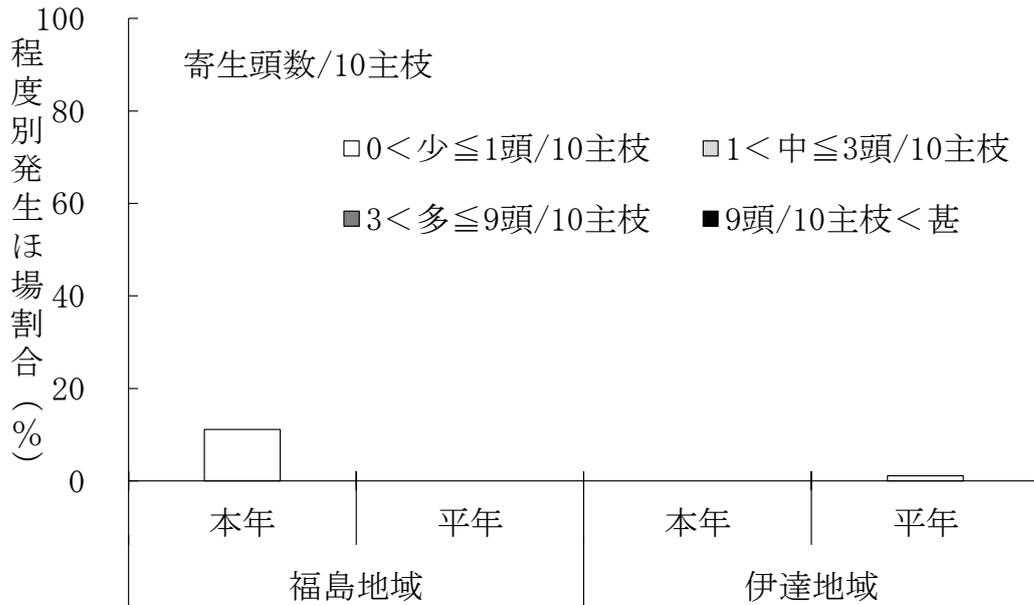


図8 クサギカメムシの主枝への寄生状況（5月上旬）